

学習課題(中学校2年生)



【国語】

<学習内容> 「仁和寺にある法師—『徒然草』から」

○教科書「仁和寺にある法師—『徒然草』から」(P158～159)を読み、登場人物の行動に着目し、作者のものの見方や考え方に触れ、登場人物の特徴や作者の考え方について論じてみよう。

～私は、□□について、◇◇と読み解いた！！～

<取り組み方>

- (1) 教科書 P158 の「徒然草」の冒頭部分を、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しながら5回音読し、その表現に慣れよう。
- (2) 教科書 P159 の出典などを参考にしながら、「徒然草」の作者・時代・特徴などについて自分でまとめてみよう。
- (3) P158・159にある、「仁和寺にある法師」を繰り返し音読しよう。本文の中の動作や発言が誰のものなのかを考えながら、内容を理解しよう。
 - ① 「心うく覚えて」とあるが、誰が、どのようなことを残念に思ったのだろう。
 - ② 「思ひたちて」とあるが、誰が、どのようなことを思い立ったのだろう。
 - ③ 「かばかりと心得て」とあるが、誰が、どのような思い込みをしたのだろう。
 - ④ 「年ごろ思ひつること」とあるが、それはどのようなことだろう。
 - ⑤ 「ゆかしかりしかど」とあるが、誰が、どのようなことを知りたいと思ったのだろう。
 - ⑥ 「山までは見ず」とあるが、それはなぜだろう。

学習のヒント 主語を補いながら読む。

古文では、主語が省略されることがよくあります。誰の動作・発言なのかを考えながら読みましょう。

(例) 扇は空へぞ上がりける。しばしば虚空にひらめきける…

→主語…扇

→主語…扇

★「平家物語」にも出てきた「係り結び」に着目して、法師や作者のどのような思いが強調されているかを感じ、読み味わうのもいいでしょう。

(4) 「仁和寺にある法師」の特徴と法師の行動に対する作者の考えを捉え、三百字程度で論じてみよう。

- ①仁和寺の法師がした勘違いの内容をまとめよう。
- ②仁和寺の法師は、なぜこのような勘違いをしてしまったのだろう。また、どうすればこのような勘違いをせずに済んだのか、自分の考えを書こう。
- ③仁和寺の法師の行動に対する作者の考えを原文から抜き出そう。
- ④作者のものの見方や考え方について、自分が感じたことや今後にかかしていきたいことを仁和寺の法師と同じような勘違いをした経験や見聞を思い出しながらまとめよう。
- ⑤ ①～④を踏まえ、三百字程度の文章を三段構成で書いてみよう。

【例】 一段落…人物の特徴
二段落…本文から読み取れること（根拠）
三段落…人物や作者の考えに対する自分の考えや意見

※(1)～(4)に取り組む中で気付いたことや考えたことについて、取組シートに記録しておこう。